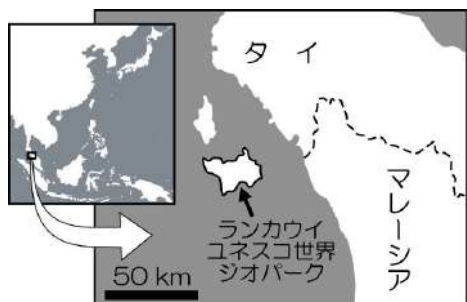


### ジオパークの「ネットワーク」ってなに？

このたび室戸ジオパークは、2018年10月27日に、マレーシアにあるランカウイユネスコ世界ジオパークと姉妹提携のための協定書を締結しました。ランカウイとは2013年に交流を開始し、以降定期的に住民同士の交流(手紙のやりとりやビデオミーティング)がすでにもたれていました。では協定書を締結することで何が変わるのでしょうか？それは今後みなさんが手にするかもしれない、機会(チャンス)の多さです。

今回の調印式の前1週間かけてランカウイジオパークでは、主にアジア太平洋地域のジオパークを目指す地域に向けての地域研修会がありました。ジオパークについてのあれこれ(ジオパークってなに？地域との連携ってどうやるの？など)を勉強するための研修会です。それに室戸市観光ガイドの会の宮崎万純さんも参加しました。今回の研修会に参加して、宮崎さんが感じたことを下記の文章にさせていただきました。地元ガイドさんが研修会に参加して、世界中の方と交流できるのは、ジオパークがネットワークでつながっていて、それが誰にでも開かれているからです。(小笠原翼、国際文化専門員)



域との連携ってどうやるの？など)を勉強するための研修会です。それに室戸市観光ガイドの会の宮崎万純さんも参加しました。今回の研修会に参加して、宮崎さんが感じたことを下記の文章にさせていただきました。地元ガイドさんが研修会に参加して、世界中の方と交流できるのは、ジオパークがネットワークでつながっていて、それが誰にでも開かれているからです。(小笠原翼、国際文化専門員)

### 「一歩踏み込めば世界が変わる」

室戸市観光ガイドの会 宮崎万純

10月22日から26日までマレーシアのランカウイ島で開催されたユネスコ世界ジオパークの研修会に、室戸の地元ガイドとして参加してきました。参加者はアジア諸国から50名ほど、すべて英語で行われる研修会です。ジオパークを通じての観光や教育、保全などについての講義を受けたり、あるテーマについて皆で話し合ったり、実際にフィールドワークに出たりして、参加者たちと交流してきました。

私の英語力は日常会話程度のもので、専門的な用語は分かりませんし、これまで英語で議論などしたことはありませんでした。何より辛かったのはグループワークで、英語が分からないからといって何も発言しないのでは来た意味がないし、そもそも参加者にはこれから世界ジオパークになりたいという国の人も多かったため、既に世界認定されている室戸の意見は皆から求められました。初めこそ発言は少なかったものの、交流が深まるうちに積極



グループワークの様子

的に意見を言えるようになりました。嬉しかったのは、私のつたない英語でも他の参加者はちゃんと聞いてくれるし、進んで会話を持とうとしてくれることでした。

室戸や日本のことを考えたときにもったいないと思うのは、多くの方が英語に苦手意識を持ちすぎていて、国際的なあらゆる交流に尻込みしてしまうことです。一歩踏み込めば、友達も増えて視野も広がってこんなに楽しいのに、その手前で自分で線引きをしてしまう。好奇心と思いやりだけでいいと思います。



研修最終日のフィールドワーク

(裏面もご覧ください)

# 企画展「地球×ちきゅう II」、1日先生を開催

11月10日(土)と18日(日)の2日間、地球深部探査船「ちきゅう」で活躍する研究員を迎えて、ミニ講座と企画展示のミニ解説ツアーを行いました。南海トラフ近海における探査船「ちきゅう」での研究生活や、最新の研究成果など興味深い話がたくさん出て、参加者の質問についても丁寧に答えていただきました。

1月26日(土)にも1日先生「海底の地下2kmでも生きる微生物の不思議」(講師:星野辰彦 研究員)を開催します。来月のジオパークだよりで改めてお知らせします。



11/10 講師:谷川 亘 研究員



11/18 講師:濱田 洋平 研究員

企画展開催中!

期間

平成30年 平成31年  
11月1日(木)~1月31日(木)

※12/8(土)は企画展はありません。

【場所】室戸世界ジオパークセンター

【時間】9:00~17:00(開館時間と同じ)

展示

地球深部探査船「ちきゅう」の紹介パネル、ドリルビット等  
南海トラフ地震に関するパネル

体験

地層キャンドルを作ろう(土曜・日曜のみ、500円)

## 室戸ジオパーク推進チームの活動紹介

室戸ジオパークの活動を推進する5つのチームの中の「まもる」チームが、ツアー中に地震が起きた想定で、避難を検証しました。

室戸市社会福祉協議会さんから、高齢者疑似体験セットをお借りして、「港の上ツアー」開催中の地震時を想定。ツアーで回るコースの避難場所から比較的遠いところからの避難を2か所体験しました。避難所までのルートが適切か、瓦の落下などで通れなくなるのではないか、溝に蓋が欲しい、など防災の話とともに、普段のツアー時に高齢者のお客さんに配慮した伝え方や行動、道具についても意見が出ました。帰る際にも、細い道を歩きながら「この塀、くずれたら通れないかもしれないね」など、たった1時間半でしたが防災の視点が芽生えていました。

今後はガイドさんと一緒に別の場所などでも行っていきたいと思っています。(地域おこし協力隊 小笠原 優)



推進チームには、「まなぶ」「まもる」「かせぐ」「もてなす」「ひろめる」の5つのチームがあります。どなたでも参加できますので、興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

室戸ジオパーク推進協議会 〒781-7101 室戸市室戸岬町 1810-2

TEL:0887-22-5161 FAX:0887-23-1618 Email:info@muroto-geo.jp

http://www.muroto-geo.jp/ 次号「室戸ジオパークだより」は、2019年1月発行予定です。

(裏面もご覧ください)